潮風

平成8年1月20日発行（年2回刊）
〈教育後援会だより〉
しおかぜ
発行／明海大学浦安キャンパス教育後援会
〒279　千葉県浦安市明海8
電話 0473-55-5112　FAX 0473-55-5117

〈第5号／主な目次〉

1P……新春対談
2P……リーダース研修会レポート
3P……地区懇談会
4P……サークル紹介
5P……国際交流
6P……今年の就職状況

新春対談（要約）

21世紀の国際化・情報化社会へ向けて

高等教育の質が問われる時代

明海大学浦安キャンパスの開学から8年。この間の努力で、学内の設備や教育のレベルは向上し、卒業生たちも各方面で活躍するなど、確実に「明海大」はその歴史を重ねつつある。今後、本学が社会のニーズに的確に応え、さらに質の高い高等教育の場となっていくために、教育後援会はどのような支援をしていくべきなのか、21世紀へ向けての夢や展望も含めて、宮田常務理事長、大束百合子学長、宮田侑常務理事と丹下会長の対談が行われた。（司会・教育後援会丹下剛会長）

人間としてどう生きるのかを学んでほしい

丹下会長　大束先生は長く学長の要職を経験されていると聞いておりますが、日本の大学など高等教育を振り返り、その現状はどうなっているか、お聞かせください。

大束学長　たびたび、大学の理事長や学長クラスの方々が集まる場に参加するのですが、そんなところで決まって話題に出るのが、昨年起きた阪神大震災とオウム事件のことです。特にオウム事件を見ると、教育が人間教育と切り離されたものであってはいけない、ということを痛感させられます。今後の教育のあり方が問われているのです。

専門学校には、専門の知識・技能を集中的に教えるという使命があります。大学はどうでしょうか。試験で答案を書いて単位を取ってしまえば、全部忘れてしまうようではいけない。単に知識・技能を詰め込むのではなく、人間としてそれをどう統合していくかを学んでほしい。つまり大学は人間としての幅を付ける場だと、学生にも自覚してもらいたいのです。また、教師と学生との人間関係の中で、それを伝えていく努力が必要と感じております。

宮田理事長　どんな学生になってもらいたいかということがいちばん問題なんですよね。

私立大学だけに建学の精神があり、それにのっとった教育をして、プラス専門分野の知識・技能を身につけます。でも、専門分野を研究して技術には強いが、常識に欠ける人間では困るわけです。知識・技能を統合して、人間としてどう生きていくのかを学んでほしいわけです。

また、科学技術が進歩して、物事はすべて物質に完結するような考え方が独走していますが、命や精神的なものを尊重するということを、もう一度認識する必要があると思う。

ただ、人間は生まれながらにして常識を持っているわけではないんですね。それは、親子の関係や友人、地域の中で培われていくものです。つまり家庭教育が大切。父母のみなさんが学校と一緒になって子弟の教育をするんだという気持ちになっていただけたらと思います。

丹下会長　21世紀には日本は高齢化社会を迎え、福祉問題が重要になってきます。この社会的な要請に対して、明海大学では福祉学部を作るお考えがおありでしょうか。

宮田理事長　福祉の問題は、突き詰めればそれを支える経済の問題ということと、経済学部の講義の中に当然「福祉」ということも入れて考えなくてはならない。歯学部についても同じです。新学部を作って福祉を専門にやる意志はありませんが、各学部との関連において、そういうことは当然入ってくると考えています。

現代社会に対応できる人材育成を

丹下会長　私も父母の立場から、子どもたちが大学生として有意義な学生生活を送ること、青春を大いにエンジョイできることを願っています。そして、子どもたちの能力を十分に開発できる環境を与えていただくために、明海大学の設備や教育レベルには注目しています。明海大学の充実に向けての具体的な方策を聞かせてください。

宮田常務理事　社会において有益な人材をどう送り出すか、大学はそういう使命を持っていると思う。また、子どもたちには明海大卒というブランドは一生つきまとうわけですから、私たちの仕事はこの大学をいかによくするかに尽きると思います。ただ、大学の評価も時代とともに変わります。今の時代なら、自然に国際化になっていかなければならない。

現在、明海大学には留学生が290名います。この人たちが日本人学生と交流すること、これが大切で、国に帰って活躍をすることで明海大学が社会的な評価を受けることになりましょう。

逆に、日本人学生にも大いに海外へ行ってもらいたい。どこの学校でもやっていますが、海外の大学と単位の交換をするとか、在学中の留学制度を設ける他に、成績優秀者を大学の費用で留学させるようなシステム作りも実現可能だと思います。

丹下会長　先程の大束先生の話にも教育の充実の話がありましたが、これから必要となる大学の設備は何でしょうか

宮田常務理事　すぐにやりたいことはいろいろありますが、効率よく、教育の施設・設備に投資していかねばなりません。

そう考えると、情報化時代への対応が急務でしょう。今考えているのは「情報図書館」です。本だけでなく、パソコンを使って様々なメディアから情報を引き出せるシステムですね。たとえば、インターネットを使って、外国での研究がリアルタイムに引き出せるくらいのことができなければ、時代に対応できない。さらに、学生たちがパソコンを使って気軽に日常の情報を交換したり、コミュニケーションする「広場」のようなものも付属させたいと考えています。これはすぐにでも、実現にかかりたいと考えています。

丹下会長　最後に教育後援会に対する御要望がありましたら…。

宮田常務理事　みなさんの精神的なサポートは心強い限りです。仲良く一緒にやっていくという気持ちですね。これは大事なこと。目的のために思いは一緒ですから、よろしくお願いします。

丹下会長　今日はどうもありがとうございました。

（1995年11月22日理事長室にて　構成・明光企画）

宮田理事長

大束学長

宮田常務理事

丹下会長

本誌の題字となる色紙を宮田理事長から贈られる

新春対談に想う

教育後援会の皆様に年頭の御挨拶を申し上げます。

新年を迎え、会長として8カ月を振り返って、教育後援会は父母の立場で大学と歩調を合わせ前向きに進んでこられたのではないかと思っております。この間、大学の基本的考えを拝聴することが大切なことを実感しておりましたが、学生課をはじめ関連の方々からいろいろの機会に有益な御助言と寛大な御協力をいただいたお陰で、今回、画期的な新春対談が実現しました。明海大学浦安キャンパス開学と後援会設立からまもなく10周年ですが、大学の基本方針を確認でき、後援会の今後の運営方針に多大な示唆をいただいたのであります。

対談では、宮田理事長・大束学長・宮田常務理事それぞれの責任ある立場から明確なご発言を賜りましたことに強い感銘を覚えました。要望として、大学自体の経営・運営が国の内外の社会変動の中で種々の要因に左右されつつも、現在の慢性的不況下にある社会事情、長期的には国際化と情報革命の時代、高齢化時代の到来を認識し、社会の変化と要請に俊敏に対応できる魅力を大学が獲得していくことが要求されているように思います。

また、子どもたちにはこのことを自覚し、将来の環境の変化に対応して逞しく生きていく基礎的な力（人間性と学力）を大学生として身に付けることが課せられていることを父母の皆さまに理解して頂きたいと思います。

一九九六年　会長 丹下 剛

～お父さんお母さん安心してください～

息子娘達は立派に大学生をやっています。

研修会全体会議にて

浦安キャンパス 第3回 リーダース研修会レポート

30度を超す猛暑の中、7月30日より8月1日まで埼玉県秩父市にあるナチュラルファームシティー農園ホテルで、教職員25名、学生77名（内女子12名）の参加で有意義な研修会が行われた。今回教育後援会としては丹下会長以下2名が参加した。以下そのレポートです。

〈1日目〉

参加学生の清々しさに目を見張る

30日朝、浦安キャンパスより大型バス2台で、秩父へ向け出発。バスの中では自己紹介の後、昼の弁当。ゴミの分別収集等、学生役員諸君のテキパキとした動きに目を見張り、我が子とついつい見比べてしまう親心。某先生の最近の男子学生は茶髪、ピアスなどをしている礼儀知らずの者が多いとの発言があったので、今回の参加者の中にもそんな輩の一人や二人を覚悟したのだが一人としてそのようなリーダーは見当たらず、清潔な男女ばかりに見えて当初よりの心配は雲散霧消した。

興味深かった講演

農園ホテルに到着。午後2時より学友会長の関根君の開会の辞、続いて鷲見実行委員長、学生部長の藤本先生、丹下後援会長の挨拶の後、足立事務局長の「大学を取りまく情勢」（情勢）と正保先生の「教室の相互作用について」（強制発言法について）の講演があった。正保先生の「発言法について」は各個人に発言券を与えて発言しない学生をなくそうという不思議な試み、思わず身を乗り出して聞き入った。

木立にひびく「ひぐらし」の鳴き声を肴にビールを呑んでいる頃、学生諸君は翌日の議論のためのミーティングがあった様子。

〈2日目〉

翌31日は朝食後、ホテルのバスで近くの秩父セメントの体育館を借りてポートボール大会（バスケットボールを簡単にしたもの）が各グループに分かれて行われ、教職員ともども参加したが、ゲーム時間の5分間の長く感じられたことと学生諸君のゲームに対するやさしさ（特にわれわれ中年族に対して）に感心した。

明海大について多くを学ぶ

昼食後7～8名の学生を中心に教職員が2、3名ずつ、各グループ10班に分かれ、共通テーマ「明海大学の教育における現状把握とその問題点及び改善点」とグループごとのテーマに分かれて話し合った。グループごとのテーマは「明海大学の学校施設について」「課外活動による明海大学の知名度アップ」「課外活動と学生の関係について」「明海大学の授業カリキュラムと授業内容について」「学生の学生生活にもっと目を向けてもらうためには」となっており、私の入ったグループでは共通テーマについて次の発言があった。

①学生による先生の授業評価をしたい。②先生方に高齢者が多く情熱が感じられない。③不動産学部の先生の部屋に入りづらい。④カリキュラムの変更が多すぎる。⑤教務課学生課の対応がいまひとつ不親切。もう少し若い人の採用を望みたい。また学校施設については①明海クラブの件がフライデーに載ったことに関して質問が集中、建設費の出所とか学生の使用料が何故必要か。就職活動で先輩がこの件の質問を受けいやな思いをした。チアリーダーチームが大きな鏡のあるスタジオがなかなか使用できない。②図書館のスタジオがなかなか借りられない。③公式戦のできるグランドへの改修を考えて欲しい。④グランドをもう一つ欲しい。⑤学友会会館を建設して欲しい。⑥大学の南側の土盛りは何なのかなど。

親にとっては知らないことばかりで明海大学についての勉強不足を今更ながら感じるとともに、学生諸君の真面目な態度に共鳴し、また頼もしく思えた。このグループには足立局長近江学生課長が入っておられたので、お二人から即答できる諸問題については詳しい説明があり、また、夕食時の立食パーティーでは大東学長の挨拶の中で授業評価については早急に実施したいなどのお話があり、大学当局のすばやい対応が感じられた。パーティーではあっという間にごちそうがなくなり、その健啖ぶりに驚き、また役員諸君、ラグビー部、ヨット部の皆さんとも楽しい会話ができ、秩父へ来て本当によかった。

後日浦安市内で商売をされているK君のお父さんに挨拶されたり、ホテルでアルバイト中のFさんにも明海大学の方ですねと声を掛けられ、これもリーダース研修会へ参加できたおかげとありがたく思った。

（川口一郎）

浦安キャンパス教育後援会と歯学部父兄会との合同懇談会開催

9月9日（土）・10日（日）の両日に浦安キャンパス教育後援会と歯学部父兄会との合同懇談会が行われた。

同じ大学でありながらキャンパスを異にするためか、今まで一度も交流が行われなかった両会の交流がはじめて実現された。

会報『けやき台ニュース』に刺激を受ける

9日午前11時頃、浦安キャンパスより教育後援会の役員一行21名はマイクロバスにて出発し、一路、埼玉県坂戸市にある歯学部キャンパスを目指し、午後1時頃無事到着した。

午後2時より合同懇談会が開催され、開会に先立ち北野歯学部長、荻島歯学部父兄会幹事長、丹下浦安キャンパス教育後援会長のそれぞれの方からご挨拶をいただき、引き続き両方の役員の自己紹介、さらに両会の事業報告がそれぞれの会長から行われた。

交流会の成果は早速現れた。皆様にお読みいただいている『後援会だより』が今号から名称・紙面を一新したのは、当日、会場で配付されました歯学部父兄会の『けやき台ニュース』のカラフルな紙面と豊富な内容に役員一同が驚き、「これは見習わなくてはいけない」と刺激を受けたからから。

特別講演「80歳で20本の歯を保つには－あなたの歯は大丈夫ですか？－」

3時からは歯学部、中尾俊一教授（口腔衛生学講座担当）より、「80歳で20本の歯を保つには－あなたの歯は大丈夫ですか？－」という演題で特別講演があり、日頃、健康を気にはしているものの、実践には結びつかないわれわれには、具体的な話が多く、大変有意義な講演であった。

〈講演要旨は次のとおり〉

■全身の健康は歯の健康と大きく関連する

昔の死亡原因の多くは結核病、脳血管障害などの成人病であり、日常の生活の仕方が病気の原因に大きく影響する。日頃の生活習慣の指導が病気の予防になるということであり、国の方針で小学校でも5、6年生に対してそのように教え始めている。

歯科は従来から生活習慣の指導を含めて医療を行ってきた分野でありその実績は高く評価されている。

歯の健康は全身の健康と大きく関連する。健康を維持増進していくには子供の頃から生活習慣の熟成に向けて育てていくことが大事である。

最近の子供たちや学生を見ていると基本的な生活習慣が形成されてないのではないかと危惧を覚える。

■最低でも20回かむこと

国の調査でも国民の多くは健康と余暇の両立を願望している"アクティブ・エイティ・プラン"というのがあり80歳まで健康で活動的に過ごすということが主眼である。

これには栄養、運動、休養の3つのバランスを上手にとることが決め手である。併せて「ハチマル・ニイマル運動」がある。本日の演題である「80歳で20本の歯を保つには」ということである。健康に暮らすには食物をよく噛むことが大切で、最低でも20回、できれば30回が基本である。

また、生えたての歯は虫歯になりやすいので、子供のころの歯磨きの習慣付けはとても大事である。

歯を正しく磨くこつは、歯を一本ずつ磨く感じをもつこと。また、口臭が気になる方は歯を磨く時に舌をも掃除すると効果がある。

アメリカ、ハーバード大学のネイヤー氏が唱える「夫を早死にさせる10か条」は逆説的な言い方であるが医学的には十分頷ける内容である。

いずれにしても、元気で生きていくには、人生にやる気を起こして、何事にも興味を持つことである。

病院を見学する役員の方たち

併設病院見学

講演終了後は歯学部の学内施設、併設病院を見学した。

なかでも併設病院の小児外来治療室が、治療に来た子供たちがリラックスして治療を受けられるようにと、色彩、グッズなどで、子供の不安感を緩和する工夫がなされているのには、医療が治療だけではなく、癒しの部分をも併せて行っているのかと筆者なりに納得をした次第である。

懇談会終了後は会場を川越市の佐久間旅館に移して、合同懇談会を開催し、和やかな雰囲気の中で両会の交流が図られた。

最後に、両会の今後一層の交流の前進を約束して午後8時に散会した。（秦　誠二）

びっくり箱みたいにワクワクドキドキ

第8回明海祭

昨年11月3日（祝）から5日（日）までの3日間にわたって行われた「明海祭」。さわやかな秋晴れに恵まれ、学生や近所の家族連れなど延べ5000人が訪れ、学園祭を楽しんだ。

8回目となった明海祭。今回のテーマは「JACK－IN－THE－BOX（びっくり箱）」。銀座7丁目劇場で活躍中のお笑いグループによるライブや、大石加奈子さんのミニコンサート、ミス明海コンテスト、日本人高校生と外国人によるスピーチコンテストなど楽しいイベントが盛りだくさん。進学相談や経済、日本語、中国語、不動産、英米語の各学科で公開講座も開かれた。

また、円形ステージでは軽音楽部や箏曲、フラメンコ、空手などのサークルが練習の成果を披露。野外に作られたメイン会場やペデストリアンデッキでは、タコ焼き、焼きそば、焼き鳥などの模擬店がずらりと並び、大勢の人でにぎわっていた。

円形ステージで演奏する学生たち

父母の思い、大学の熱意が伝わった

～好評だった地区懇談会～

教育後援会が主催する地区懇談会が11月19日（日）に行われた。大学と父母の交流の場に、と昨年東北地区で第1回の懇談会がもたれ好評だったため、今年は北陸地区を加えて2カ所で同時開催となった。両会場には約90名の父母が参加。大学側からも大東学長をはじめたくさんの教職員が参加して、和やかな中にも有意義な懇談会となった。

東北地区懇談会は福島県郡山市の「郡山ビューホテル」で開催された。大学側から、宇田川璋仁経済学部長、鈴木進外国語学部長、成瀬隆教務部長、小島久代中国語学科主任、伊藤文夫教授、樋口清秀助教授、渡辺鉄大講師、櫻井隆講師、足立卓三事務局長、天野貞雄第二部事務課長、近江彰学生課長らが、教育後援会からは川口一郎副会長、大竹キヌ子幹事、小林由美子幹事、白石雅章名誉会員が出席。52名の地区会員が参加した。

一方、北陸地区懇談会は新潟市内の割烹の宿「湖畔」で開催された。大学から大東百合子学長、石原舜介不動産学部長、藤本一美学生部長、三田昌克浦安キャンパス事務部長、地下和弘就職指導課長と各学科の担当教員らが。教育後援会からは貝原和年副会長、柳田雅子幹事、野田雅子幹事、中島嶺子幹事、教育後援会評議員松井三男さんらが出席。北陸の地区の会員の参加は35名。

北陸地区の懇談会では、まず、貝原教育後援会副会長が「私たち父母は、遠く離れた大学で子どもたちがどういう生活をしているのか、ほとんどわからないのが現実。今日は直接先生方から話を聞いて、どんな環境で学んでいるか知ってほしい。そして、教育後援会はどのような角度で学生を支援していくのがよいか、一緒に語り合いたいと思います」と挨拶して第1部がスタート。

北陸地区懇談会で挨拶する大東学長

続いて大東学長が、「大学では専門分野の知識技能を身につけるだけでなく、それを統合して人間としてどう生きるかを学んでほしい」と教育方針について話した。そして藤本学生部長が7月31日から3日間にわたって行われた「リーダース研修会」や清里で行われた「留学生の集い」、11月3日から5日に開催された「明海祭」など、学校行事について報告。また、学生のサークル活動についてもふれ、テニス部、サッカー部、ラグビー部、ヨット部、陸上部が優秀な成績を残していると発表した。

就職指導課の地下課長からは、4年生の就職状況についての説明があり、「厳しいとは言われながらも、早くから準備を進め、自分の進路をきちんと見定めて活動した学生や、宅建などの資格を取得した学生は内定率が高い」との報告があった。

そして、教育後援会の活動報告や学校紹介のビデオを見た後、各学部の担当教員と父母との個人面談に移った。1995年度の前期試験結果と履修科目表を資料に、熱心な話し合いが行われていた。相談は成績や出席など学校生活に関することや就職に関することが多く、具体的なアドバイスがなされていた。

父母と教員との個人面談風景

第2部は立食形式での懇親会。最初は緊張気味だった参加者たちも、この頃にはすっかり打ち解けた様子。日本海の海の幸を楽しみながら、交流を深めていた。

懇談会の終了後、貝原副会長は「親御さんからいろいろな意見が出ました。できることは教育後援会も援助して実現してもらうよう、大学に要望をだしていきたい」と感想を話していた。また、大東学長も「親御さんと親しく話ができて大変有意義でした。大学は教師と学生の関係も希薄になりがちですが、熱心な親御さんの話を聞いて、学生をどう指導したらよいか、先生方も大変参考になったと思います。地区懇談会は毎年続けて、できるだけ多くの方とお目にかかりたい」と話していた。

大学に、教育後援会に望むことは？

参加者に感想を聞きました

「地方には明海大学の名前が知られていないので、片身が狭い。もっと有名にしてほしい」

「大学のPRのためにも、学生のサークル活動をもっと支援してほしい。野球部はどうして作らないのでしょうか」

「サークルに入っていないので、友だちができにくく、学校になじめていないようで心配しています」

「男の子で自炊をしているので、栄養面が心配。学食のメニューは単品ではなく、栄養のバランスがとれたメニューを増やしてほしい」

「学校の行事予定を教えてほしい。明海祭に参加してみたかった」

「個別面談では、先生方が親身に相談にのってくださったので感動しました」

「単位の見方や成績表の見方を教えていただきました。先生方にお会いして大学に親しみがもてました」

「Uターン就職を考えていますが、大学がどれくらいバックアップしてくれるのか心配です」

「地元に来てくれて、大学の熱意を感じます。地区懇談会はずっと続けてほしい」

参加者の声

■地区懇談会に参加した印象について

○大変わかりやすくよかった
○参考になった
○大学内の様子がわかった
○各学部の教員との個別面談がよかった
○学校、先生の話を聞けて有意義
○参加してよかった
○学校のことを少しでも知りたいから出席した
○学校や先生方に親しみがわいた
○大勢の職員が参加して、大学の意気込みが感じられた
○昨年とても和やかな会だったので今年も参加した
○就職の厳しさを感じた
きめ細かい指導がよかった
○なごやかに会話ができた
○地方にいる親としてありがたい
○学科別に交流ができてよかった
○初めてなのでよくわからない
○もっとこういう機会を増やしてほしい

■今後の教育後援会に期待することは？

○今後も地区懇談会を開催してほしい、回数を増やして
○期待しています
○もっと大勢の方の出席を望みます
○活動状況を知りたい
○学生と親元の連携に助力してほしい
○父母の声が届くような後援会を希望します
○学生の諸活動の支援
○個人面談、就職相談を充実してほしい

■大学に関しての要望は？

○就職先の開拓と強力なバックアップをお願いしたい
○親と大学との情報を密に（学校の行事や、学校内での生活状況などを教えてほしい）
○資格を取るための講座を積極的にすすめてほしい
○大学院を作ってほしい
○大学をもっとＰＲしてほしい
○大学のレベルの向上を目指してほしい
○図書館の充実、学生の自治活動の育成
○サークル活動を活発に
○最後の入試はあまり遅くない方がいいと思う
○夢を与えてほしい
○資格試験の出欠等の情報がほしい
○学力偏重にならないよう、人間教育を希望

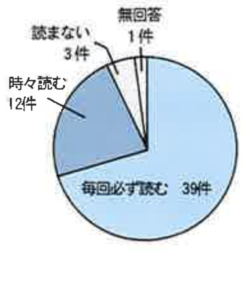
地区懇談会参加者のご意見 アンケート内訳

回収数 55（東北地区35 北陸地区20）

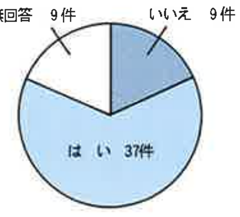
〔お子さまの学部・学科・学年〕
外国語学部日本語学科 6名
英米語学科 9名
中国語学科 5名
不動産学部不動産学科 21名
経済学部 経済学科 14名

1年生 23名　2年生 12名
3年生 11名　4年生 9名

①「教育後援会だより」を読んでいますか？

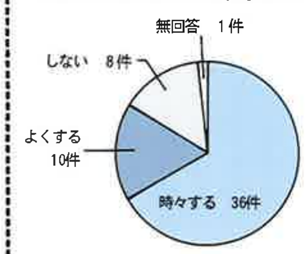


②大学からの情報に満足していますか？



「いいえ」と答えた方へ、どんな情報を希望しますか？
（回答 8件・無回答 2件）
●子どもの生活状況や出席などの情報 2件
●学科別の就職状況 2件
●国内外への就職情報 1件
●留年したので面談の機会がほしい 1件
●学園祭など行事 1件
●よりよい情報 1件

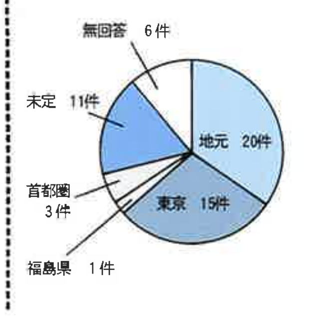
③お子さまと大学について話をすることがありますか？



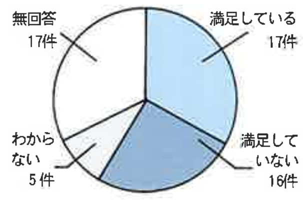
④お子さまとの話ではどんな話題が多いですか？

（回答 38件・無回答 17件）
●日常生活の話 12件
●サークルのこと 8件
●就職のこと 8件
●授業のこと 7件
●友だちのこと 4件
●アルバイトのこと 3件
●スポーツのこと 2件
●学校生活のこと 2件
●将来のこと 2件
●留学のこと・資格取得のこと・料理のこと・教職員のこと・いろいろ・進路のこと・成績のこと・健康のこと 各1件

⑤お子さまが就職を希望している地域は？



⑥大学からの就職情報に満足していますか？



「満足していない」とお答えの方へ。どんな情報を希望しますか。
（回答13件・無回答 4件）
●具体的に情報を回数多く 4件
●求人のある企業、職種の情報 3件
●とにかく情報不足 3件
●先輩はどんな企業で活躍しているのか 1件
●まず、就職できること 1件
●就職の内定状況 1件

⑦次回の地区懇談会の開催地について

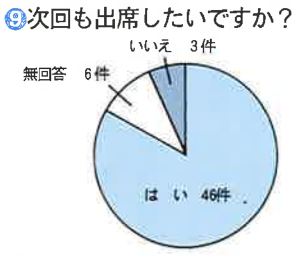
今回と同じでよい 44件
変更してほしい 5件
（仙台、青森、福島、4県持ち回りで）
無回答 6件

⑧今回の会場までの所要時間は？

（回答 54件・無回答 1件）

30分以内	18件
1時間以内	10件
1時間30分以内	9件
2時間以内	5件
3時間以内	6件
4時間以内	3件
5時間以内	3件

⑨次回も出席したいですか？



1996年上半期の学年暦

●1月16日～23日 後期試験
●3月23日 学位記授与式
●4月6日～11日 オリエンテーション
●4月10日 入学式
●4月11日～12日 新入生オリエンテーション
●4月13日 前期授業開始
●4月15日～19日 学生定期健康診断
●5月17日 創立記念日
●7月22日 前期授業終了
●7月23日～31日 前期定期試験
●8月1日～9月14日 夏季休暇